

報告 診療報酬改定セミナーでポイントと対応を学ぶ 広島県支部

当協会広島県支部は3月24日、平成28年度診療報酬改定セミナーを開催した。中林梓氏(ASK 梓診療報酬研究所代表)を講師に、講演「平成28年度診療報酬改定のポイントと経営対応～診療所への影響と対策～」を行った。広島県支部では、毎年3月に医業経営セミナーを開催しており、診療報酬改定の年は診療報酬改定セミナーとしている。継続して開催してきたことで、各方面からの評価も高く、今回は開催案内開始から早々に定員200人が一杯となり、早めに締め切らざるを得ず主催者として嬉しい悲鳴であった。当日は176人(会員37人、一般139人)が、たっぷり4時間の講演終了時間まで熱心に聴講した。

診療所を取り巻く環境の変化

中林氏はまず、今改定の基本方針を「治す医療」から「治し、支える医療」への転換とし、人口減少の中での地域医療の確保、地域包括ケアシステムと効果的・効率的で質の高い医療提供体制の構築、そして、次回2018年度に予定されている診療報酬と介護報酬の同時改定など、2025年を見据えた中長期の政策の流れの一環としての位置づけを踏まえた改定であることを認識し理解すべきとした。

その上で、高齢者数増加の地域差を示しながら、首都圏をはじめとする都市部を中心に高齢者は増加するが、高齢化のピークを越えた地域も多くあるため、まずは自院の診療圏の状況を理解することが基本になる。言い換えれば、すべての医療機関の稼働率がダウンする時代になったと述べた。

また、地域医療構想は、多くの病院が外来に特化する時代を予見させるものであり、診療所のライバルとなる可能性が大きいなど、今後の診療所を取り巻く環境の変化と医療・介護の方向性と将来像を熱く述べられた。



以下に、終了後に回答いただいた受講者の声の一部を参考までに紹介しておく。

広島県支部 セミナーアンケート回答より一部抜粋

- ・2025年に向けて昨年度の介護報酬と合わせ、いよいよ定量的な施策に着手していくんだなという意思を強く感じる改定となったことが理解できた。
- ・診療所に特化して話されたことがとても有意義でした。
- ・経営を考えた診療報酬の説明がとてもよかったです。
- ・印象に残ったのは高齢化の進みに伴って「治す医療」→「治す、支える医療」への転換が求められるであろうということで、「かかりつけ医」であれば点数をつけるという改定であるということ、強く実感できました。
- ・在総管の説明を詳しく話していただいて良かったです。
- ・いろいろな説明会に参加してきましたが、他では本をただ読むだけで、今回の説明は噛み砕いて同じ目線で話していただき、すべて、とてもわかりやすかったです。
- ・今後の医療・介護の方向性と将来像を示してもらったので、どう取り組めば良いのか考えてみたいと思います。
- ・在宅医療等、4月以降診療所がチェックすべき算定要件をととてもわかりやすく御指導いただきました。
- ・毎回ご案内をいただくので出席しています。わかりやすく必ずお土産を持って帰れます。次回もぜひ案内をお願いします。

(本部広報委員/広島県支部広報連絡員
藤井 康彦)